学校だより

磨光

令和７年２月 17 日（月）
三豊市立本山小学校
No.25
発行者：中田　祐二

５年生の教室にプロのフットサル選手がやってくるという噂を聞きつけて、他の学年の子どもたちは、俄然、沸き立ちました。「５年生だけ、ずるい。」―あなたたちの学年も、いろいろといい思いをしてきたでしょう。「その人、今、どこにいますか？」―教えると押し寄せていきそうなので、教えません。「校長先生は、その人と知り合いですか？」―いいえ、違います……。興味は尽きぬようです。

５年生と夢先生・村上哲哉さんが、体育館で触れ合った様子については、２月 14 日（金）のブログでお伝えしました（右上二次元コード参照）。今回の紙面では、その後、５年教室でおうかがいした夢先生の夢トークをお伝えします。今回、村上さんと会えなかった子どもたちとも、夢を分かち合えるように。

「大好き」の数だけ夢がある

村上さんがサッカーを始めたのは小学校２年生の時。大好きなサッカーができることがとにかく楽しい、そんな村上さんは練習後、サッカーシューズをいつもぴかぴかに磨き、枕元に置いて寝たそうです。「明日もサッカーができますように」と祈りながら。そして「プロ選手になれますように」と願いながら。

小・中学校とエースとして活躍した村上さんでしたが、サッカー名門校に進学した当初は、Ｃ チームに配属されたそうです。Ｃチームは、Ａチームが練習しているコートサイドでボール拾い。練習後はグランド整備。大好きだったサッカーができないつらさに、サッカーをやめようとさえ考えました。しかし、村上さんを支えたのは、子どもの頃からサッカーの練習に付き合ってくれた父親の言葉「人よりも練習して、誰よりもボールにさわろう」でした。心を切り替えた村上さんは、誰もいない夜のグラウンドで自主練習。朝も人よりも早く起きて練習。その成果あって、２年生の初めにＢチーム、そしてＡチームへと昇格しました。この「食いしばって、這い上がった経験」が村上さんの「無敵の経験」になりました。

高校卒業後、Ｊ リーグに入れなかった村上さんは、大学に進み、フットサルと出会います。そこで抱いた気持ちが、小２の時と同じ、「大好き」「楽しい」でした。この感情が、新しい夢「プロのフットサル選手になる」を生み、現在の自分につながっていきます。

「夢の教室」の最後、５年生の子どもたちは自分たちの夢を堂々と語りました。スポーツ選手、ペットショップの店長、美容師、縫い師、画家……。子どもたちの「大好き」「楽しい」の数だけ、夢が出てきました。「大好き」「楽しい」は夢につながる。そして、夢があればくじけない。そう信じさせてくれた村上さんの夢トークでした。

フィギュアスケーターの羽生結弦さんが現役時代に戦っていたのは、スケートが好きで、何時間滑っても飽き足りず、どんどん新しい技に挑んでいた９歳の自分でした。

> ……勝利を義務付けられた。何千回も氷にたたきつけられ、「疲れたな、もうやめようって思った」。
> そんな時、９歳の時のプログラムを深夜のリンクで一人、舞った。すると、感じることができた。
> 「やっぱり、スケート好きだな」
> ９歳の自分に、27 歳の自分が負けるわけにはいかなかった。　（2022.2.11 朝日新聞から抜粋・要約）

夢いっぱいの子どもたちへ。第一線で活躍しているどんな選手も、必ず挫折を経験しています。みんなの「大好き」「楽しい」がいっぱいの夢も、きっと挫折と向き合うことがあるでしょう。そんな時は、小学校時代の自分に帰ってきましょう。純粋に「大好き」「楽しい」思いを抱いている今の自分に。